

第1回 町田市下水道事業計画評価委員会の確認事項について

	意見・要望	回答	今後の対応
2022年度事業の進捗状況報告			
(1) 住環境の改善 ①汚水管整備事業	○合併処理浄化槽への切替え数を20基に設定して実績が0基で「C」という評価になっているが、84基ある単独処理浄化槽に対して、20基という目標の設定が分からない。その説明が全くないから評価がしにくい。	調整する。	町田市では、10年概成汚水処理人口率95%を2016年の時点で既に達成していたこともあり、町田市公共用水域水質改善10ヶ年計画では2026年度末までに水洗化率（下水道処理+合併処理浄化槽処理）100%を目指すこととなった。2021年度末で下水道事業計画区域外の単独処理浄化槽使用世帯と汲み取り便槽使用世帯は合わせて100世帯あり、2026年度末までに0世帯とすべく、年間20基（5年で100基）の合併処理浄化槽設置補助金の支給目標を設定した。 2027年度以降は、切替え数ではなく、下水道事業計画区域外の単独処理浄化槽数の削減を目指すカタチの目標設定が良いのではないかと考えている。
(1) 住環境の改善 ②未接続家屋への汚水管接続普及啓発指導	○汚水管接続件数を30件に設定して、実績が36件で「B」という評価になっているが、3年以上未接続家屋が300件あるのに対して30件の目標というのはそもそもどうなのか。 ○全体（300件）を見て評価をすべきではないか。	対応を考えていきたい。	※3年以上未接続家屋について訂正（誤）300件（正）約1,200件 2021年度の目標は10件の接続に対して51件であったことから、2022年度は30件に見直した経緯がある。しかし、それは全体（約1200件）を見て設定した目標ではないので、全体の未接続家屋の件数や未接続理由をふまえて、目標数を見直したい。経済的な事情、居住者の高齢化、建物の老朽化といった理由で未接続の家屋がある。そういった家屋に対しては住民の事情を考慮したうえで再啓発する時期を調整し、下水道接続啓発を行いたい。今後も引き続き、下水道未接続理由を調査し、公共下水道の目的や役割など丁寧な説明を実施し普及啓発活動を行う。
(2) 河川の水質向上への貢献 ①下水処理水の水質向上	○浄化槽維持管理費補助制度対象者のうち47.2%がこの制度を利用したということで、その残りはどうなっているのか。 ○前年度から増えたから評価は「B」ということだが、三大義務の未実施を「0」にする必要がある。その戦略はどうなっているか。	考えさせていただく。	補助金対象の浄化槽基数は1,466基あり、その中で補助金支給した浄化槽（3大義務実施※一部例外有）は692件あった。（47.2%） 残りの補助金申請の無い浄化槽には、全く何もしていない浄化槽、3大義務のうち1つのみ実施、2つ実施、3つすべて実施したが補助金未申請の浄化槽が考えられる。 ちなみにそれぞれの義務実施基数は 清掃を行った浄化槽1,034基 保守点検を行った浄化槽1,046基 法定検査を行った浄化槽742基 ※補助金申請には法定検査実施が高いハードルになっているようである。 3大義務達成100%（未実施0）は当分は求めない。（個人の財産であり、義務違反に対する罰則等の強化が無く、ほぼ不可能であるため。） そのため、目標も「浄化槽維持管理費補助制度対象者への適切な維持管理の啓発・指導」としている。 現在、最終目標である3大義務達成100%と現状値が乖離しているため、この差を段階的に埋める必要がある。そのため、直近の目標値は、現状の実績値である50%弱を水準に、10%程度底上げを行うことを目標とした60%としている。 ※【参考】法定検査実施率 現在値（2022年度） 町田市 合併のみ51.8%、全体44.5% （2021年度） 東京都 合併のみ47.9%、全体27.9% 全国 合併のみ47.1%、全体64.9%